

# 人生の座標軸

・・・日本人のころ・・・

2024.4.20

川崎幸雄(45W)

## 1. 日本を取り巻く環境

- ① 人新世：環境問題（温暖化、災害、食糧、海洋汚染他）、分断（経済格差、新冷戦）
- ② パラダイムシフト（第四次産業革命）：産業資本主義からデジタル資本主義、アトム（モノ、ハード、所有）からビット（データ、ソフト、利用・共有）へ
- ③ SDGs（持続可能な開発目標）、VUCA（不確実で予見困難）の時代

## 2. 日本人のころ（VS 西洋）

- ① 温暖多雨（森林と岩清水）、四季の変化、自然災害多発  
→神道（自然・太陽への畏敬の念）、自然との共生、雪月風花、無常・死生観、
- ② 水田稲作（農耕）によるムラ社会（勤勉、我慢、謙虚、協調、同調、内向き）  
→和の精神、集団主義（個よりも集団の調和重視）、異質者の村八分
- ③ ムラ社会は共同体社会：縦割り（縄張り）、年功序列、内向き、情報の内部秘匿、前例主義、非ルール性（情実、慣れ合い、付度）→組織の維持が最重要、政治行政、医師会、JA など日本国内中心の組織にムラ社会性が強く残る。  
（過去のムラ社会的組織は電電公社、電力会社、国鉄など。）
- ④ 農耕民族の安全・安定（ゼロリスク）志向→小さな改良、前例踏襲、減点主義  
<VS>狩猟民族の冒険・挑戦（トライ&エラー）志向→発明・発見、失敗許容
- ⑤ 八百万の神の国（日本）：心・身、魂・物の一体（一元、無分別、曖昧）  
→右脳的（情緒的）、自然と一体、わびさび、文芸の発達  
<VS>一神教の国（西洋）：心・身、精神・物は別（二元、分別、区別）  
→左脳的（知性的）、自然と対峙、科学の発達
- ⑥ 日本人の高い道徳心は武士道精神（神道、禅、儒教）がベース、「恥を知る」  
→惻隠、忍耐、忠孝、潔さ、名誉、礼節、長幼の序、「花は桜木、人は武士」  
→集団主義（ムラ社会）、自己犠牲、家柄・血筋、排他性、没個性、「負の側面」  
⇐第二次大戦にて神風特攻隊、精神主義、「大和魂」
- ⑦ AI は左脳的、人間の強みは社会的スキル（ホスピタリティ）、創造力（クリエイティビティ）、管理力・総合判断力（マネジメント）、突発的事態への対応力  
→右脳的な日本人にもチャンスあり？

## 3. どう生きるか<幸せとは>

- ① 人間は大自然の一部、生かされ生きている。生きるからは“幸せ”でありたい。
- ② “幸福感”は良い人間関係から。対極は“孤独感”
- ③ 和して同ぜず”当世風「和の精神」“、Compromise（妥協、譲歩）や Debate（白黒決着）でなく Discussion（対話）で Win-Win の世界へ。

以上